

上海・中国流行報告

2024年11月号
群馬県上海事務所

灼熱の太陽もすっかり落ち着き、朝晩は肌寒く感じる季節になってきました。10月の国慶節は春節に次ぐ伝統的な祝日です。連休を利用して故郷に帰る人、海外・国内旅行に出かける人などで、毎年この時期の駅や空港は大勢の人で溢れています。街中の至る所に国旗が掲げられ、国旗の赤が秋の空によく映えてとてもきれいです。

流行報告 2024年11月号。今回は2つの話題をお送りします。



道路に掲げられた国旗

集まれ！文房具好き！？

先日、「“文房具の女子会”なるものが開催されるらしい」という情報をキャッチした。詳細を調べてみると、JETRO（日本貿易振興機構）とLOFTが共同で、中国の消費者向けの販促イベントを開催するとのこと。この販促イベント、日本では既に何回か開催されているが、海外では初めて！中国人の日本の文房具ブランドに対する反応を取材することにした。

会場は「上海メトロシティ」というショッピングモール内。このモールは、若者たちが集う活気あふれたエリアに存在する。イベントスペースに近づくにつれて大盛況の様子が伝わってきた。



イベントエリアを上階から見た様子



真剣な眼差しで商品選び

このイベントに参加したのは33社の日本文房具ブランド。エリア内には日本国内ではお馴染みの商品がズラリと並ぶ。

真剣な表情で商品を吟味する女の子、友達と一緒に楽しく選ぶ学生たち、スタンプ押し放題を楽しむ女性たち…みんな、このイベントを心から楽しんでいるように感じた。

筆者が見たところ、値段は日本での販売価格の約2倍。輸送コストや関税の関係もあるから当然のことだろう。しかし、なかなかのお値段であっても、多くの人が躊躇なく購入する様子には大変驚いた。

熾烈な受験競争が繰り広げられている中国。「お気に入りの文房具で少しでも勉強を楽しく」という気持ちで買い求める学生も多いのかもしれない。

店員さんに話を聞いたところ、「このようなイベントは初めてなので反響がとても良く、どの商品も満遍なく売れている。女性客が多い」とのこと。

心の中で「さすが“女子会”」などつぶやきながら、気がつけば筆者も真剣に商品を選ぶ一人になっていた。



レジは常に順番待ち



日本語で書かれたポップ

呼びかけだと分かっても思わず嬉しくなる“美女～！”

レストランやカフェなどでよく聞こえてくる「美女（メイニウ）」「帅哥（シュアイガー）」という響き。「美女」は漢字そのままの意味で「美しい女性」、「帅哥」は「かっこいい男性」を表している。もっとだけた言い方をするなら、「きれいなお姉さん」、「イケメン」といったところだろうか。

中国の人はこの表現を自然に使っている。

客が店員を呼ぶとき、店員が客に声をかけるときなど、相手の年齢などには関係なく使っている。日本で言うところの「すみませ～ん」や「お客様」という呼びかけに近いのかもしれない。それにしても初めて「美女」と呼ばれたときの驚きといったらもう…(笑)



人気撮影スポット 武康大楼
(現在もマンションとして使用されている)



夜空に映える東方明珠塔（上海テレビ塔）

しかし、驚くと同時にとても嬉しい気持ちになったこともよく覚えている。

「美女」や「イケメン」と声かけされて、悪い気がする人はいないだろう。

少しイラッとしてしまう状況でも、「美女」の後に言葉を続けられると、思わず「まあ、いいか」と思ってしまう。

14億もの人口を誇る中国。人が多ければ、その分、トラブルも多いだろう。

「美女」「帅哥」という声かけは、「日常生活をトラブルなく過ごしたいという彼らの思いから生まれたものなのかも？」なんて、そんなことを感じる今日この頃である。